

かぼちゃ技術情報 No. 1

平成 29 年 4 月 5 日

組 合 員 各 位

大 瀧 村 農 業 協 同 組 合
特 産 か ぼ ち ゃ 生 産 組 合

かぼちゃの播種・育苗管理について

1. 床 土

育苗用土(赤・黒混合土)と完熟堆肥を 1 : 1 で混合したものを使用し、初期生育を確保するため、床土 1 m³ 当たり、ようりん約 10k g、稚苗 2 号 (5-8-5) を約 6kg 施用してください。(完熟堆肥が用意できない場合は、育苗土と「とり&とんユーク」を 2 : 1 で混合)

※製造会社の養鶏がトリインフルエンザを発病したため、注文品以外の「とり&とんユーク」の確保が難しくなる可能性があります。上記資材の確保が難しい場合は、「ニッピ良菜培土」を使用してください。

播種前に床土の pH・EC の測定を実施してください。

pH の目安は 6.0~6.5、EC の目安は 0.5ms~1.0ms です。EC の値が南瓜栽培マニュアルより変更されていますので注意してください。

2. 浸種・催芽

種子を一晩浸種させたのち、湿った布で包囲して、一昼夜 25℃~30℃位で加温して放置すると芽を出します。(床暖房やこたつ等を利用すると簡単です。) 湿った布をビニール等で覆うと種が酸欠で不揃いになるので、絶対に行わないでください。

3. 播 種

ポット直播が望ましく、催芽してから播種します。播種前にポットに水をかけ、シルバーポリトウやパオパオ等の資材で被覆してポット内の温度を上げておくことで生育が良くなります。播種後も保温、乾燥防止を目的にシルバーポリトウ等の資材で被覆してください。

出芽の際は必ず温度計(地温計、気温)を利用し、播種後は地温を 25℃~30℃に保ち、一斉に発芽させます。なお、土が盛り上がったなら被覆資材を取り除き徒長苗にならないように注意してください。

4. 管理方法

出芽後は、ポットの土が乾いたら灌水を午前中に行います。水のかけ過ぎに注意してください。定植の 7 日前頃より灌水を控えめにし、丈夫な苗を育てます。

育苗初期から低温で管理した場合、雌花着生が優先し、雄花の確保が難しくなることから、育苗期間を通して平均気温を 15~18℃程度に管理するようにしてください。(霜注意報が出た時などは被覆資材を利用する)

育苗後期に苗が密生状態になるので、ポットをずらし苗の葉が重なり合わないようしてください。また、老化苗にならないよう十分注意してください。

2.5 葉程度で定植になるように、定植日から逆算して播種してください。(育苗期間は圃場栽培の場合は、20 日程度、ハウス栽培の場合は 15 日程度を目安としてください)

※ 水稻育苗後のハウスで栽培される方は、対象ハウス内で南瓜での使用登録のない農薬（パダン、プリンス、オリゼメート等）を水稻苗の上から散布した場合、農薬が土壌に残留し、出荷停止となりますので、注意してください。

5. 野鼠対策

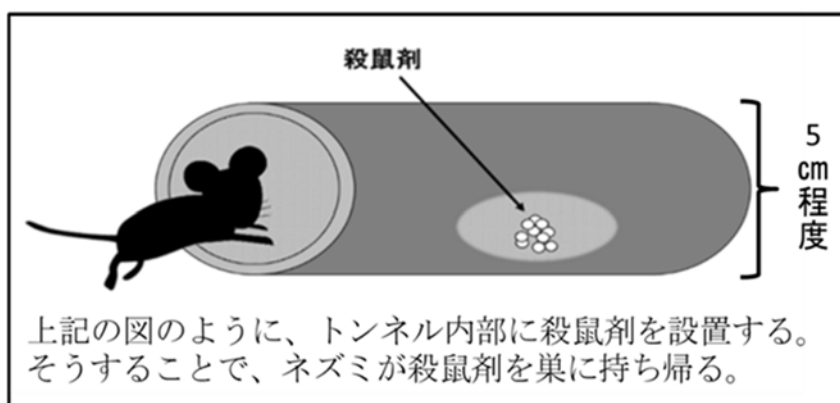
野鼠は春にエサが増え、繁殖が活発になることから、春のうちに対策しておくことが重要です。

種籾、鳥の餌、お菓子(かつぱえびせんなど)に殺鼠剤を混ぜ、ごま油や使用後の天ぷら油等をかけたものを使用すると鼠の食い付きが良くなります。エサには人間の匂い(特にタバコの匂い)をつけないように注意してください。

圃場をしっかりと除草しておくことで、鼠の隠れる場所が減り、鳶などの天敵に見つかり易くなるので、除草もしっかりと行ってください。

パイプ(直径 5 cm 位)などに殺鼠剤を入れて、餌場を作る方法もあります。殺鼠剤が減ってきたら適宜、追加してください。餌場はトンネル状が好ましいので、片方の穴を塞がないように注意してください。また、パイプが軽いと、他の動物や、鳥にパイプをひっくり返されるので、重いパイプを使うか、上から土をかけるなどの工夫をしてください。

・パイプでの餌場設置の例



・殺鼠剤

農薬名	対象病虫害	希釈倍数(倍)	10a当り散布薬量	使用時期	使用回数	成分系態
粉末ラテミン	野鼠	—	200～750 g	—	—	ワルファリン
ヤソヂオン	野鼠	—	200～300 g	—	—	ダイファジノン
Z・P(劇物)	野鼠	—	30～500 g	—	—	リン化亜鉛

※殺鼠剤は使用方法・注意事項を熟読して使用してください